

# 第76期事業報告及び計算書類報告の件

2021年6月24日

代表取締役社長  
西田憲司

# 1. 第76期決算トピックス

## 【売上高は1.5%の減収】 … 売上高合計4,652百万円

- ・ 製品・商品は39百万円の増収(前期比+0.9%)、切削屑は109百万円の減収(前期比▲19.0%)。
- ・ 黄銅弁は0.9%の減収：[増収] バルク付属機器 [減収] LPガス容器用弁、設備用
- ・ 鉄鋼弁は3.6%の増収：[増収] 船舶用、バルク付属機器 [減収] 設備用、低温弁

## 【営業利益は増益】 … 営業利益84百万円

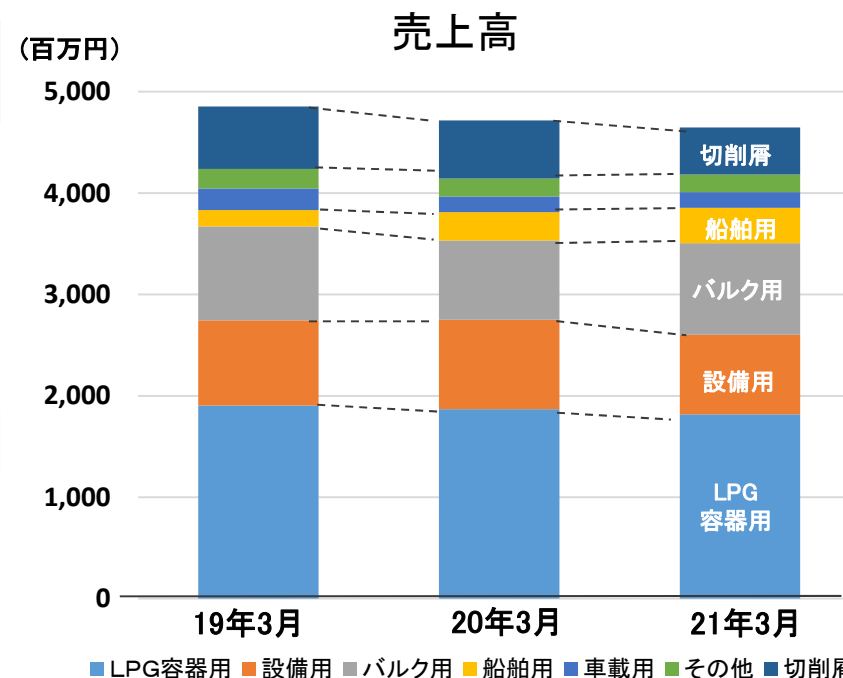
- ・ 増益理由：
  - － 雇用調整助成金の助けを借りながら、稼働調整と経費削減を実施しました。
- ・ 収益圧迫要因：
  - － 黄銅材の高騰が懸念材料です。(売上の約70%が黄銅関連)
- ・ 対処策：
  - － 黄銅製品の値上げに踏み切りました。
  - － インターバルブテクノロジー(株)(以下「IVT」)との合併事業により売上高と工場稼働率アップとを図りますが、次期の業績に与える影響は軽微です。
- ・ 次期見通し：
  - － 高騰している黄銅材価格の動向と新型コロナウイルス感染症拡大の影響が不透明であり、現時点では通期業績予想を「未定」としております。

## 【配当見合わせ】

- ・ 現時点で次期業績が不透明なため、第76期の配当を控えさせていただきます。

## 2. 売上高

| 単位：百万円 |         | 2019年<br>3月 | 2020年<br>3月 | 2021年<br>3月 | 21-20年<br>増減 |
|--------|---------|-------------|-------------|-------------|--------------|
| 黄銅弁    | LPG容器用弁 | 1,905       | 1,868       | 1,817       | ▲51          |
|        | 設備用     | 348         | 354         | 316         | ▲38          |
|        | バルク付属機器 | 628         | 521         | 585         | 63           |
|        | その他     | 1           | 0           | 0           | ▲0           |
|        | 小計      | 2,885       | 2,745       | 2,719       | ▲25          |
| 鉄鋼弁    | 設備用     | 491         | 528         | 470         | ▲58          |
|        | 車載用     | 212         | 154         | 154         | ▲0           |
|        | 船舶用     | 161         | 280         | 350         | 70           |
|        | バルク付属機器 | 300         | 261         | 317         | 56           |
|        | その他     | 77          | 76          | 54          | ▲22          |
|        | 小計      | 1,243       | 1,301       | 1,347       | 46           |
|        | その他     | 115         | 101         | 120         | 18           |
|        | 切削屑     | 615         | 573         | 464         | ▲109         |
|        | 合計      | 4,860       | 4,722       | 4,652       | ▲69          |



- ・LPG容器用弁(売上減): 過度な価格競争を回避したためです。
- ・設備用(売上減): コロナ禍で工事案件が減少したためです。
- ・バルク付属機器(売上増): 交換需要が持続したためです。
- ・船舶用(売上増): 造船市場が堅調に推移したためです。
- ・切削屑(売上減): 新型コロナウイルス感染防止の観点から休業を実施し、工場稼働を低下させたためです。

### 3. 収益状況

- ・ 経費削減により黒字は確保しております。
- ・ 根本的な収益改善のためには、「事業ポートフォリオの再構築」が不可欠です。

| 単位：百万円    | 2019年<br>3月 | 2020年<br>3月 | 2021年<br>3月 | 21-20年<br>増減 |
|-----------|-------------|-------------|-------------|--------------|
| 売上高       | 4,860       | 4,722       | 4,652       | ▲70          |
| 売上原価      | 4,053       | 3,898       | 3,887       | ▲11          |
| 売上総利益     | 807         | 824         | 765         | ▲59          |
| 販管費       | 852         | 789         | 681         | ▲108         |
| 営業利益      | ▲45         | 35          | 84          | 49           |
| 営業外損益 NET | ▲11         | ▲14         | ▲5          | 9            |
| 経常利益      | ▲56         | 21          | 79          | 58           |
| 特別損益 NET  | 1           | 0           | 1           | 1            |
| 税引前利益     | ▲55         | 21          | 80          | 59           |
| 法人税等      | 31          | 16          | 35          | 19           |
| 当期純利益     | ▲86         | 5           | 45          | 40           |

#### 【売上総利益率】

|         |       |
|---------|-------|
| 2019年3月 | 16.6% |
| 2020年3月 | 17.5% |
| 2021年3月 | 16.4% |

#### 【営業利益率】

|         |      |
|---------|------|
| 2019年3月 | 赤字   |
| 2020年3月 | 0.7% |
| 2021年3月 | 1.8% |

#### 【2021年3月期】

- 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から全社で積極的な休業を実施しました。
- そのため棚卸資産が大幅に減少（前期末比610百万円の減少）し、損益にマイナス影響を与えました。
- このマイナスを雇用調整助成金の助けを借りながら、全社的な経費削減に取り組み黒字に転じました。

#### 【事業ポートフォリオ再構築】

- 既に着手している食品加工分野での新事業開発に加え、IVTとの合併事業によって、事業ポートフォリオの再構築を加速させていきます。

## 4. 財務状況

| 単位：百万円   | 2019年<br>3月 | 2020年<br>3月 | 2021年<br>3月 | 21-20年<br>増減 |
|----------|-------------|-------------|-------------|--------------|
| 流動資産     | 4,049       | 3,873       | 3,717       | ▲156         |
| うち現預金    | 320         | 199         | 291         | 92           |
| うち受手・売掛金 | 994         | 976         | 1,285       | 309          |
| うち商品・製品  | 2,017       | 2,055       | 1,428       | ▲627         |
| うち原材料    | 632         | 594         | 633         | 39           |
| 固定資産     | 4,768       | 4,636       | 4,579       | ▲57          |
| 資産合計     | 8,817       | 8,509       | 8,296       | ▲213         |
| 流動負債     | 2,573       | 2,463       | 2,389       | ▲74          |
| うち支手・買掛金 | 719         | 472         | 412         | ▲60          |
| うち借入金    | 1,414       | 1,588       | 1,626       | 38           |
| うち未払金    | 171         | 114         | 93          | ▲21          |
| 固定負債     | 2,372       | 2,253       | 2,046       | ▲207         |
| うち借入金    | 1,249       | 1,115       | 878         | ▲237         |
| 純資産      | 3,872       | 3,793       | 3,861       | 68           |
| うち利益剰余金  | 288         | 197         | 194         | ▲3           |
| 負債純資産合計  | 8,817       | 8,509       | 8,296       | ▲213         |

### 【トピックス】

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より、積極的に休業を実施した結果、工場稼働が低下したため、製品在庫が大幅に減少し、財務状況が更に改善しました。

### 【おおまかな財務の改善状況】

① 商品・製品在庫の減少 約 6億円



② 手元流動性の増加 約 4億円

③ 長短借入金の減少 約 2億円

### 【自己資本比率】

健全性を維持しています。

2019年3月 43.9%

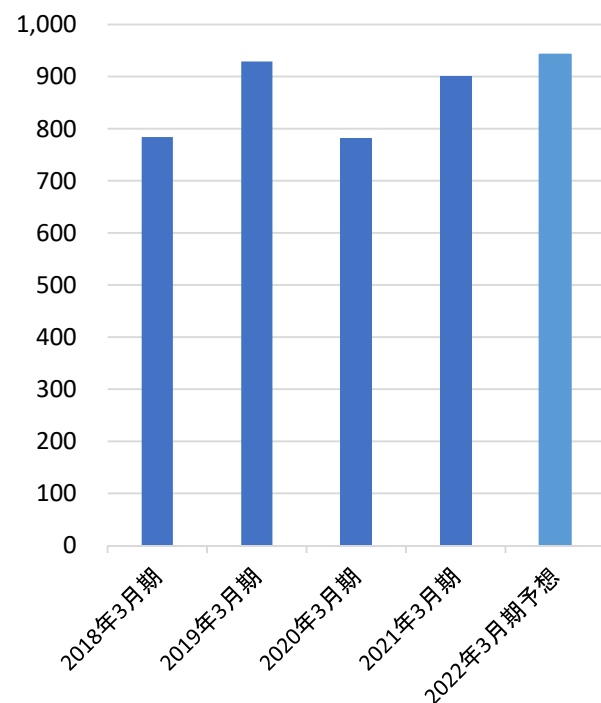
2020年3月 44.6%

2021年3月 46.5%

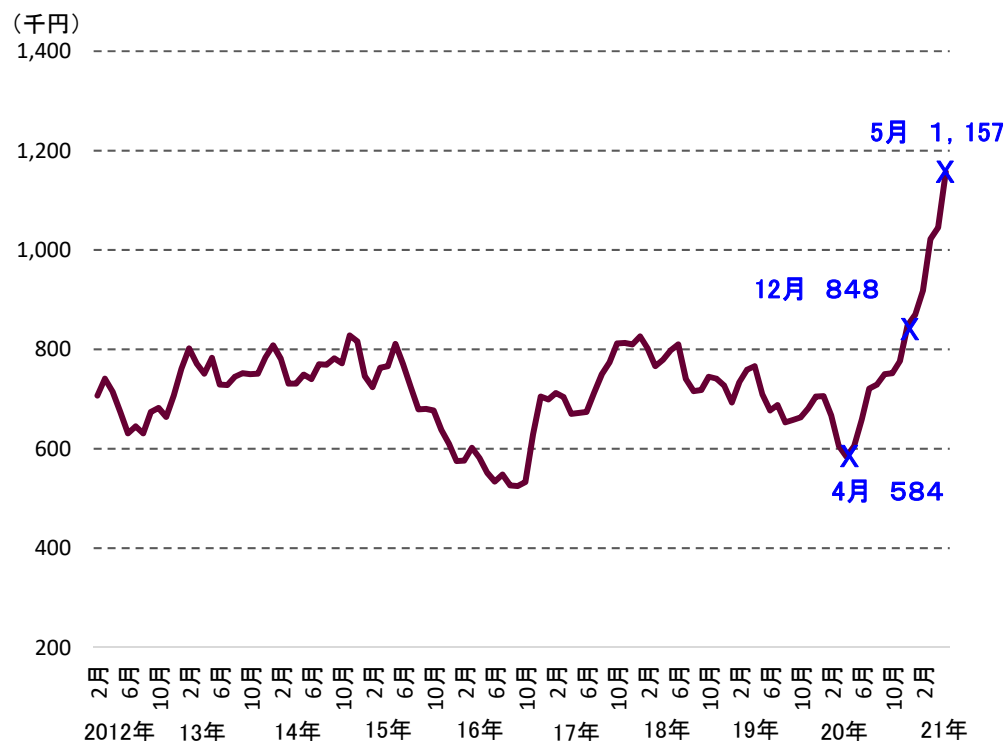
## 5. 77期(2022年3月期)業績見通し

- バルク貯槽の交換需要が売上高を底支えすると考えておりますが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響、および高騰している黄銅材価格の動向が不透明であり、通期業績予想は「未定」とさせていただきます。

(百万円) バルク関連売上高



JX金属 銅建値(1t当り月平均)



## 6. 事業展開

|         | コア事業                                                                                                             | 拡大事業                                                                                                | 新事業                                                                                                                            | 提携事業                                                                                                                                                                  |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 分野      | LPG                                                                                                              | LNG・水素                                                                                              | 食品加工用機器<br>アグリ事業                                                                                                               | IVTとの合併事業                                                                                                                                                             |
| 77期実行計画 | <ul style="list-style-type: none"> <li>黄銅製品値上げ</li> <li>工場のIoT化</li> <li>メンテナンスサービス、加工請負を活用した取引シェアアップ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>LNG弁低価格化（一部青銅化）</li> <li>液体水素用弁の再プロモーション（上海FCV展等）</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>ろ過機の用途拡大（醤油、日本酒に）</li> <li>サニタリーバタフライ弁の発売</li> <li>きくらげ商用栽培</li> <li>ぶどう栽培開始</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>IVT製造部門を合併会社化し甲府工場に移転（当社連結子会社化）</li> <li>IVTが中国グループ会社に販売しているCVに関する営業、設計、購買の業務委託を当社が受託</li> <li>中国での工場設立に向け、CVの試作を開始</li> </ul> |

CV＝半導体製造装置用  
Clean Valve



## 7. IVTとの合併事業

### インターバルブテクノロジー(株) (「IVT」)

|     |                    |
|-----|--------------------|
| 住所  | 横浜市港北区新吉田東8-33-1   |
| 代表者 | 小峰衛氏               |
| 事業  | 化学プラント向けバルブ製造・販売   |
| 資本金 | 100百万円             |
| 設立  | 2012年4月(創業1928年1月) |
| 従業員 | 22名                |
| 海外  | 北京、シンガポールに事務所      |



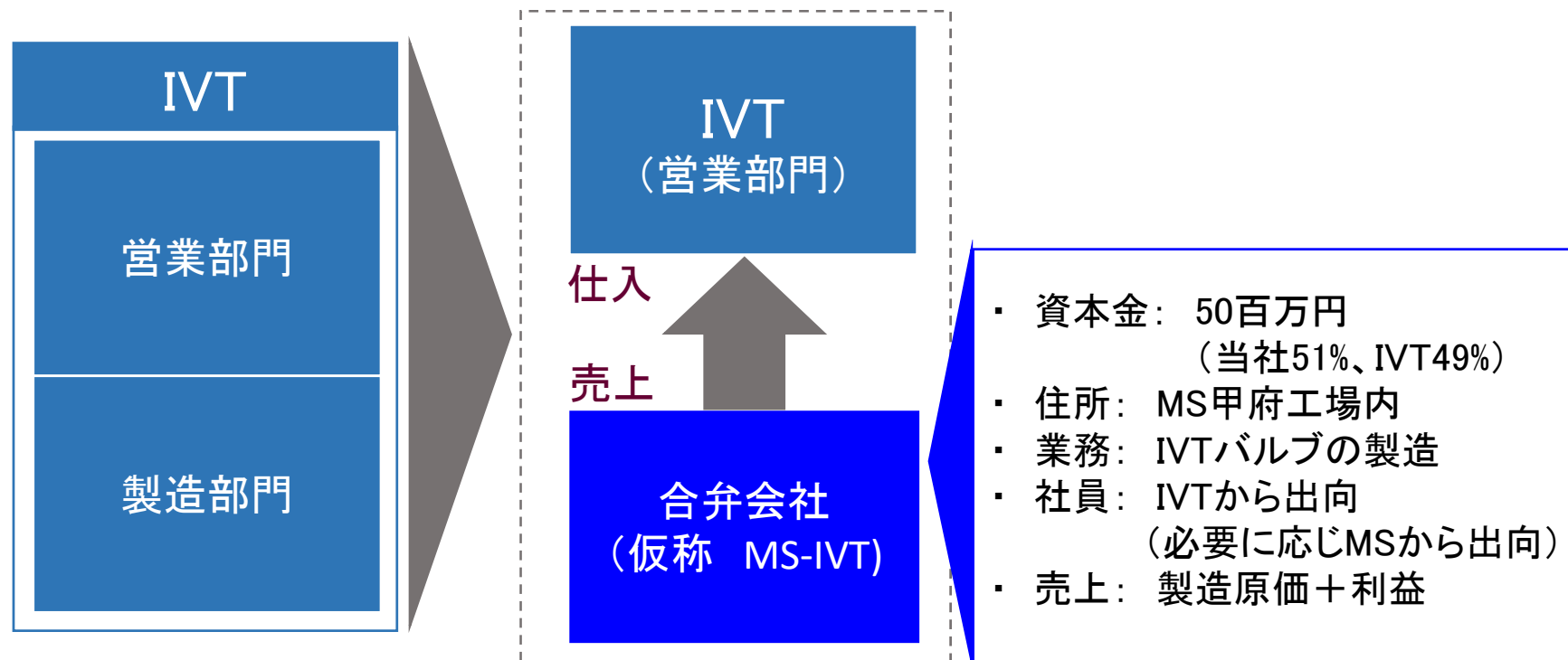
### 【経緯】

- 2018年5月に取引銀行を通じてIVTより接触がありましたが、その時点では両社にメリットが見いだせませんでした。
- 2020年9月に再度働きかけがあり、協議を重ねた結果、以下の事業を合併会社で行うことに合意しました。
  - ① IVTの製造部門を当社との合併会社(当社連結子会社として設立)に移管し、当社甲府工場に移転します。
  - ② IVTが新事業として、中国合併会社に販売しているOEMによるCVの営業、設計、購買業務について当社が業務委託を受けます。
  - ③ IVTが中国の合併会社と進めているCV製造工場設立に当社も参加していきます。
  - ④ 中国工場設立の準備として、当社独自でもCV開発に着手しました。



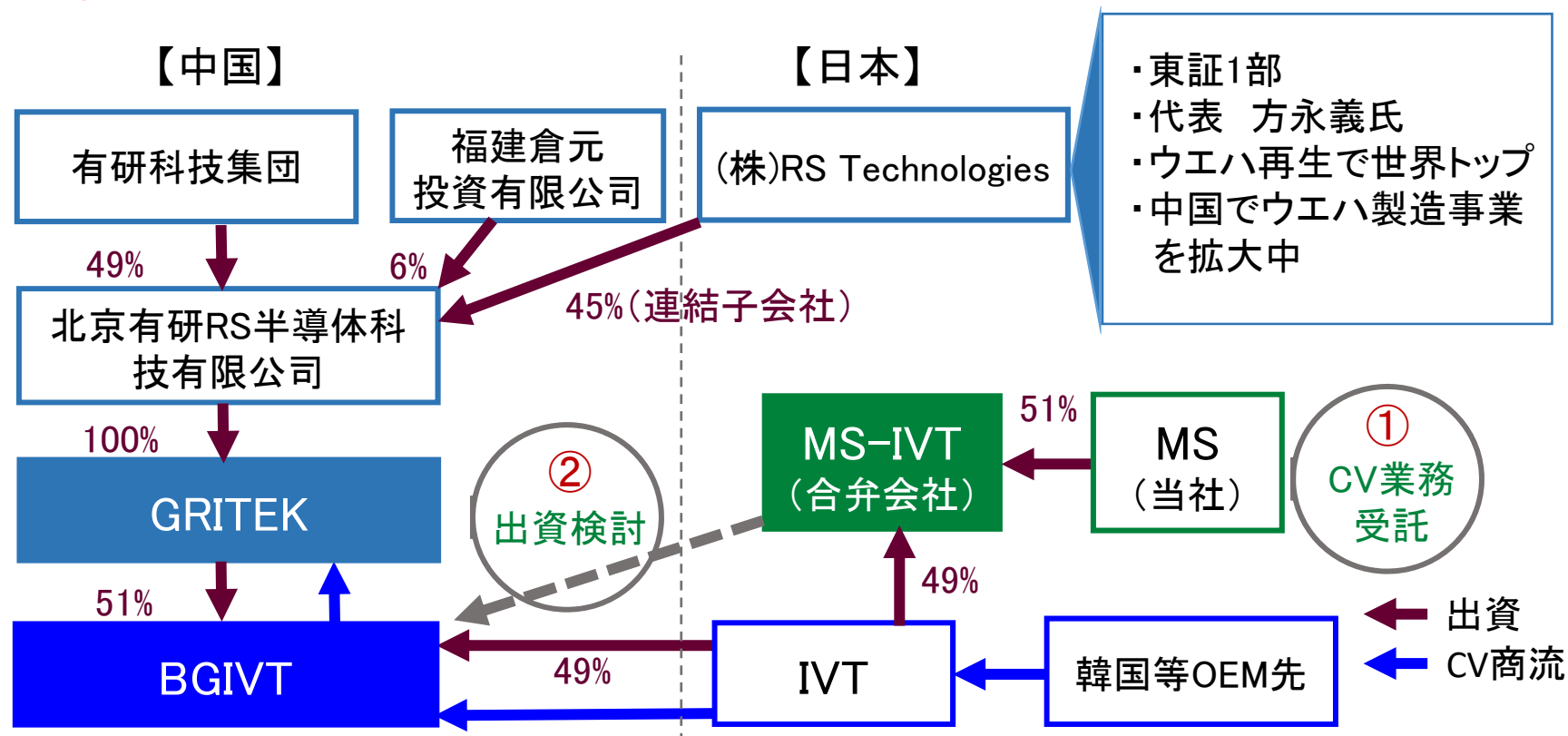
## 8. IVT製造部門の合併会社化

- ・ IVTの製造部門を合併会社化し当社(MS)の甲府工場へ移転することで、両社で以下のメリット(収益向上)を追求していきます。
  - ① IVTの固定費(工場賃料等)が削減され、IVTの収益が向上する。
  - ② MS工場の加工機を使用し、IVT製品の内製化率を上げることでIVTの収益が向上する。
  - ③ MS工場の稼働率を上げることで、MSの収益が向上する。



## 9. IVTのCV事業

- GRITEKは半導体ウエハの製造会社です。
- GRITEKが使用するCVをOEM調達するためにBGIVT (= Beijing GRITEK & IVT)が設立されました。
- BGIVTでは中国内でCVの製造工場設立を計画しています。
- MS(当社)は、次のようにCV事業に参入していきます。
  - ① IVTのCV業務をMSが業務受託する。
  - ② BGIVTにMS-IVTが出資を検討する。



## 10. アグリ事業

- 6次化農業、スマート農業に必要な機材（バルブ、ノズル、カップリング＋機器類）の開発のためにアグリ事業を行っています。

### 【アグリ事業分野】

きくらげ栽培  
原木しいたけ栽培

### 【開発したい機材】

- スプレーノズル
- 温度、湿度、光度の管理機器
- 乾燥機器

ぶどう栽培  
ワイン製造

- 散水ノズル
- 圃場管理機器
- 製造設備（除梗、潰砕、ろ過）

冷凍フルーツ

- 低温用バルブ
- 真空パッケージ機
- 冷凍機

   = 開発済み



きくらげ栽培



スプレーノズル  
(他社トマト栽培)



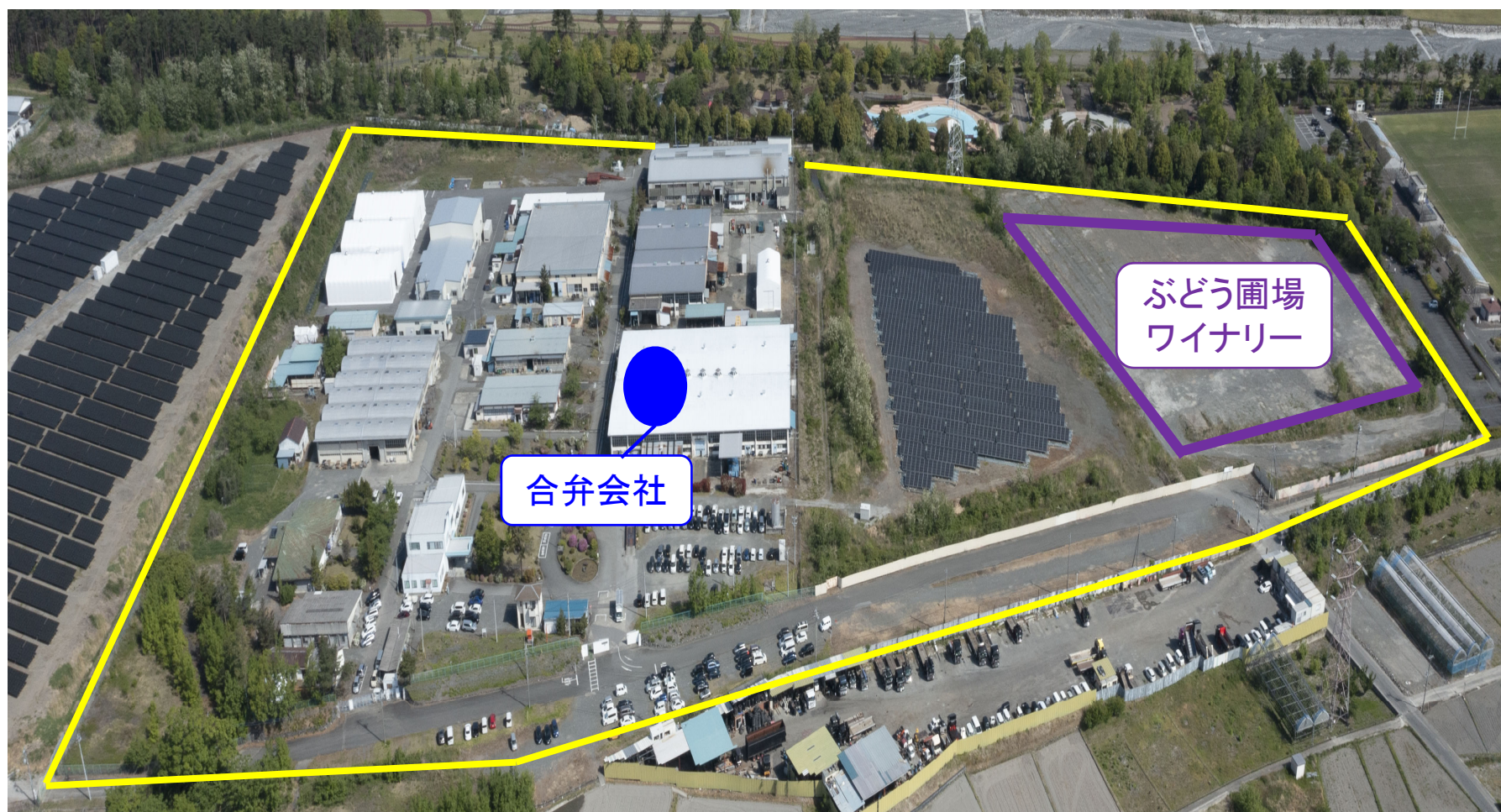
ぶどう栽培準備

- ・志村葡萄研究所様の指導
- ・工場敷地内2haの土地改良、苗植付
- ・醸造免許取得準備
- ・目標  
ワイン醸造 3年  
ぶどう栽培 5年



## 11. 緑の多い工場づくり

- 土木会社資材置き場として賃貸していた敷地をぶどう圃場、ワイナリーに転換することで、緑の多い工場づくりを進めます。





## 12. ぶどう圃場・ワイナリー完成予想図





# 13. 新事業の製品開発

- ・ スプレーノズルはポンプ、ホース、継手一体のシステムとして設置が拡大してきました。
- ・ 散水ノズルは「すし酢散布ノズル」として、ワインろ過機が醤油や日本酒醸造用として、用途拡大を始めています。
- ・ 合併事業はIVTの「既存特殊バルブ製造の甲府工場移転」と「CVの中国工場設立」を計画しています。

## スプレーノズル



事業所



いちご農園



## 食品加工機材

すし酢散布



ろ過機



## IVTとの合併事業

特殊バルブ



甲府工場移転

CV



中国工場設立

## 14. 事業戦略

- ・ あくまでも、LPガス供給機器の製造で培った要素技術を活かした事業展開を図ります。

